

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

（2）具体目標（具体的な児童像など）

仲よく

- ・よく考える子ども …… 規範意識を持ち、自ら考え、進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども … 自他のよさに気づき、共に伸びようとする子ども

強く

- ・体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども

たくましく

- ・はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成」

子どもたちが心身ともに健やかに育つことを目指し、学校・保護者・地域が協働し、生き生きとした活気あふれる学校づくりに努める。そのため、人間尊重の精神を基盤とし、家庭・地域の教育力の活用を図りながら、高い指導力を備えた教師による豊かな教育活動を展開し、子どもたちの人間力を豊かに育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学習指導の充実

確かな学力を身に付け、実社会や実生活の中で活用できる力を育む教育を工夫・創造する。

（2）教師力の向上（局所的学校力）

教職員として使命感や誇りを持ち、自己研鑽に励み、一人一人の細やかな目配り、気配り、心配りによる具体的な実践力の向上に努める。

（3）組織力の向上（全体的学校力）

互いに学び合い、情報と状況を共有し、心を通わせる教師集団による参画と協働を展開する学校組織の強化、充実を図る。

（4）特別支援教育の充実

一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する。

（5）心身ともに健やかな身体の育成

健康で安全に生活できる能力を身に付け、気力や体力を育む教育活動の充実を図る。

（6）豊かな心の育成

自己有用感を高め、思いやりの心を持ち、自他の生命を尊重する豊かな心を育む。

（7）人間力の育成

社会的自立の基礎を培い、社会の変化に対応し力強く生きぬく実践力・行動力を育成する。

（8）信頼される開かれた学校づくりの推進

家庭や地域・学区内の小中学校と連携・協働を図りながら、信頼される開かれた学校づくりを推進する。

（9）危機管理・環境整備の充実

子どもが安心して安全に落ち着いて生活できる潤いのある環境づくりに努めるとともに、落ち着いて生活できる潤いのある環境の整備を推進する。

【若松原地域学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を、「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導をして」継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学校運営 】	「子どもの匂いのする学校」 ・子供の思考・判断・表現力を大切にする学校 ・明るく楽しい活気に満ちた学校
【 学習指導 】	「互いのよさを生かし、よりよい人間関係を育む指導の工夫」 ・互いに認め合い、学び合う集団の育成 ・望ましい学習態度・習慣の定着 ・学び合いの場の意図的な設定 ・ノート指導と家庭学習の充実
【児童生徒指導】	「互いのよさを認め、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」 ～ あいさつや礼儀、縦割り・異学年交流活動の推進を基盤として ～ ・基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成 ・望ましい集団づくりにつながるよりよい人間関係づくり ・家庭・地域・関係機関との連携
【健康(体力・保健・食・安全)】	「自らの健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成」 ～ 体育授業を柱とした運動習慣の形成・休み時間の外遊び推奨の取り組みを通して ～ ・児童の体力の向上 ・運動の日常化 ・健康保持増進・食に関する指導の充実 ・家庭・地域との連携協力

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上	① 児童の良いところに目を向けプラスの言葉掛けをするとともに、「かがやきカード」等を活用して、児童の自己有用感を高める取り組みを行っていく。 ② 様々な学校行事や教育活動を通して、高学年がリーダーシップを発揮するとともに、兄弟学年での年間を通して、なかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した意学年交流などにより、相手を思いやる気持ちを育てる取り組みを推進する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は92.8%で、数値指標を上回った。児童、保護者の過去5年間の推移から見ても最高の肯定的回答率を得ており、双方ともに市平均も上回る結果となったことは、家庭のご理解ご協力の賜物であると考ええる。 あいさつ運動は、代表委員を中心に、クラス単位で実施した。また、中学生が月1回あいさつ運動に参加し交流を図った。いじめゼロ強調月間では、委員を中心に、いじめゼロ集会を企画運営し、全校生が仲間であることを実感できる活動となった。 【次年度の方針】 いじめの早期発見、早期解決のため、教育相談を年2回、学校生活アンケートを年4回継続して実施する。相手を思いやる気持ちを育てる取組の推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。また、縦割班での清掃やわくわくタイム、児童集会などで異学年交流を行うなど、全校活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる取組を推進する。 更に、様々な学校行事や教育活動を通して、高学年がリーダーシップを発揮し、児童の主体的な活動が図れるよう努める。 A 1 は学校教育の根底を支える指標と捉え、今後もより高い結果を目指して各種教育活動に取り組んでいく。

学校運営の状況	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】① 全体アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 90% 以上 【数値指標】② 全体アンケート「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答率 80% 以上	① 国語や算数を中心に、プリントやドリルを活用することで、基礎基本の定着に全校体制で取り組む。 ② 児童理解を深めるため、年 2 回、6 月と 11 月に教育相談週間を設定し、豊かな人間関係の醸成に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.6%、保護者の肯定的回答率は 93.0% で、どちらも数値指標を達成した。過去 5 年間の推移から見ても、双方とも良好な結果を示したほか、特に保護者は前年値及び市の平均を上回ったことは、大きな励みとなった。 6 月と 12 月に実施した教育相談には、Q-U アンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の結果など十分活用することができた。また、保護者に児童の学校での様子を伝えるときには、よいところを伝えるよう努めた。 【次年度の方針】 児童理解を深めるため、6 月と 11 月に教育相談週間を設定する。朝の学習の時間には、国語や算数を中心に、プリントやドリルを計画的に活用する。また、学習の効果的な実施方法等について、職員間で共通理解を図りながら全校体制で取り組むことで、基礎・基本の定着を図る。 今後とも、より「分かる授業」や「学び合いのある授業」の実践に努めるとともに、学校での取組を積極的に情報発信していく。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答率 80% 以上	①児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、全職員が毅然とした態度で、できるまで徹底して指導し、習慣づけていく。 ②児童が帰りの会等を活用して自分の生活の様子をふり返りをし、きまりについて意識できるようにしたり、宮っ子心の教育表彰を生かして児童の良いところを認める機会を増やしたりする。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 76.4% で数値指標を 3.6 ポイント下回った。また、昨年度比 -3.5 ポイント、市平均比 -7.6 ポイントであった。生活のきまりや生活目標を振り返る機会は設定したが、あいまいになり徹底できなかった。 【次年度の方針】 生活目標について、帰りの会等を活用して毎日振り返る時間を確保したり、生活のきまりについて自己評価カードを活用したりしながら、自己を見つめ直すことができるようにしたい。また、きまりやマナー強化週間等を設定し、規範意識の向上を図りたい。 「よい子の生活」の下、指導のポイントを絞るなど工夫して継続的に指導するとともに、家庭・地域に情報を発信し、協力を得ながら取り組むよう努めていく。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 85% 以上	①きめ細かな指導の充実のため、児童の実態や授業内容に合わせて T・T や習熟度別学習を実施する等、多くの学年・教科で指導形態の工夫を図る。 ②学業指導の徹底を図ったり、学級活動等での授業研究等を行ったりし、指導の工夫改善に取り組む。また、朝の学習の時間を充実を図り、一人一人の習熟を深め、学力向上を図っていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 94.5% で、数値目標を達成した。保護者の肯定的回答率が昨年度を 5 ポイント以上向上したことは大きな励みとなった。授業内容に応じた T・T や習熟度別学習の実施、朝の学習の時間の充実、個別の学習支援などに取り組んだ成果と言える。 【次年度の方針】 引き続き、T・T や習熟度別学習を実施したり、指導形態の工夫を行ったりするとともに、子どもたちが「分かった」という充実感が持てるような授業を展開できるよう、個々の授業力の向上に努める。 「分かる授業」は学校教育の根幹であることを再認識し、今後とも、学習者に寄り添う指導に努めることが大切であると考えている。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上	①委員会等による「いじめゼロ集会」の実施や「親子いじめゼロ標語」の作成、「いじめゼロシール」などによりいじめ根絶への意識の高揚を図る。 ②5, 10, 1月に実施する「学校生活アンケート」や6, 11月に実施する教育相談並びにQ-Uの結果等を活用し、児童の変化を見過さず、いじめの早期発見、早期解決に努める。 ③いじめの可能性を認識した時点でいじめ等対策委員会を開催し、全教職員でいじめ解決、根絶に取り組んでいく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は96.6%で数値指標を上回った。アンケートや教育相談、集会活動などを活用して児童のいじめの早期発見し、対策委員会を開催し全職員でいじめの解決に努めることができた。小さな気付きを見逃さず関係教職員が即座に共有してよりよい解決の道を探る迅速な対応は、本校の強みであり、誇りでもあると自負している。保護者、及び地域住民の肯定的回答率も昨年度に比べ向上し、地道な努力をご理解いただけたものと捉え、励みとなった。 【次年度の方針】 集会活動や標語作りなどを通して、いじめ根絶の意識を高めていく。学校生活アンケートや教育相談を今後も充実させ、保護者と連携を図りながら、児童の心の不安等に気付き、向き合える体制を整えていく。また、学年だより等で、いじめ対策の方針について知らせられるようにしたい。 「新田小いじめ防止基本方針」に則り、全教職員の共通理解の下、引き続き児童にしっかりと向き合い、教育活動全体を通して「いじめは決して許されない」ことを理解させるとともに、小さな気付きを即座に共有しチームで解決策を見出して取り組む学校の実態と熱意を、保護者や地域にもご理解いただけるよう、積極的な情報発信に努めていく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答率80%以上	協調性や思いやり、勤労意欲などを養うため、農園活動、清掃活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を積極的に推進する。 水曜日のロング昼休みの時間を利用して、学年学級活動の充実を図る。	【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答率はそれぞれ94.5%・100%で、数値指標を達成した。上級生、下級生がそれぞれに協力し合う活動を通して、高学年としての自覚が生まれたり年長者を尊ぼうとする意識が生まれたりした。また、お互いに思いやり、協力しようとする心情が育った。 水曜日のロング昼休みの時間を利用して学級活動の充実を図った。 その一方で、教職員、保護者が昨年を下回った背景には、時代の変化や様々な社会的ニーズを踏まえ、より学校の実態に合った教育活動の改善を求められているものと考えます。 【次年度の方針】 感謝の心、協調性や思いやりや勤労意欲などを養うため、引き続き農園活動、縦割り班による清掃活動、福祉活動、縦割り班活動などの体験活動を実施する。 次年度から始まる新学習指導要領改訂に伴う移行措置や、今後ますます求められる社会に開かれた教育課程の実現に向けて、保護者や地域住民の意向も伺いながら一丸となって改善に努めていく。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	授業参観やオープンスクールを実施するとともに、「学校だより」「学校ホームページ」により情報を発信する。	【達成状況】 保護者の肯定回答は95.2%で、大幅に数値指標を達成した。「学校だより」や「学校公開」に加え、HPの充実など、より積極的な情報発信に対して一定の評価をいただいたものと受け止める。特に今年度は、「ホームページ」で学校だよりや学年だよりなどを定期的に内容を更新し、積極的な情報発信を心掛けてきた。 【次年度の方針】 本年度と同様に授業参観、オープンスクールを年4回、月に1度保護者と関わる行事等を実施し、適宜「学校だより」や「学年だより」「ホームページ」等で情報を発信する。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】① 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 【数値指標】② 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう、各種便りや学校ホームページ等を活用して情報を発信する。 ② 地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。 更に活動の内容を「ボランティアコーナー」として紹介し、活動への理解を深める。	【達成状況】 保護者及び教職員の肯定回答はそれぞれ91.3%、97.1%で、数値指標を達成した。 地域協議会やPTAと連携し、協力を得ることで、読書ボランティアや水泳ボランティア、農園ボランティアなど、各種の学校支援ボランティアを中心に地域人材を活用して教育効果を上げることができたことや、各種たよりで保護者や地域の方への参加を促したり、学校の様子などをホームページでも公開したことが要因と思われる。児童の安全面の確保や学習面の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。また、授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう各種たよりや連絡帳等で情報を発信していく。 今後も、時代の変化や社会的ニーズを踏まえ、より学校や地域の実態に合った教育活動の改善を行っていく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品などが整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上	① 落ち着いた学校生活を送るために校内環境の在り方について、児童の視点から検討し、学校環境の整備・充実を図る。また、机や机の高さを調節し、学習しやすい環境を整える。 ② 児童が自主的に環境の美化活動に取り組む態度が育つよう、清掃や整理・整頓についてクラスで話し合ったり、よい活動をしている児童を称賛したりして、環境美化意識を高める。また、靴箱や机、ロッカーの整理の仕方を具体的に示し、身近なところからきれいにしたり、物を大切にしたりしようとする態度を育てる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は92.3%で、数値指標を達成した。かがやきの木や委員会からのお知らせや新聞の掲示、また、児童のアイデアを生かした掲示物による教室環境の整備など、児童の主体性を生かし、活動の様子が見える環境づくりに取り組んだことに、評価をいただいたものとする。 教職員の回答率からは、細部にわたる教育環境整備の必要性が示唆された。 【次年度の方針】 整理整頓の方法を可視化し、児童や教職員の意識を高め、校内環境整備を工夫していく。 上級生が下級生の面倒を見ながら共に清掃に取り組む等、縦割り班の良さを生かして、主体性や協調性を養う。 日々協力し整理整頓及び清掃に努めるとともに、引き続きPTAや地域のご協力を仰ぎ、また、機動班を計画的に活用しながら、学校環境の整備を進める。

教育活動の状況	学 生	A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答率85%以上	① 小中9年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ② 取組を繰り返し確認、検証し、改善を図る。 ③ 取組の成果や課題、改善策などをこまめに保護者や地域に周知し、理解と協力を仰ぐ。	A 【達成状況】 保護者の肯定回答は82.0%で、数値指標を下回った。地域学校園では、教職員の相互授業乗り入れや中学校との合同あいさつ運動等、さまざまな取組を行ってきたが、取組自体がまだ周知されていないと考える。 【次年度の方針】 小中一貫教育・地域学校園の取組を、各種たよりや学校ホームページ等で積極的に発信する。また、取組を保護者や地域住民に評価していただき、意見や改善策を集約していく。
		B1 教職員は学校の研究課題に関する研究に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「学校は、教職員が互いに指導力向上に取り組み、指導の工夫・改善に努めている」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答率80%以上	① 授業の中に様々な学び合いの場を意図的に設定し、個と集団の学びを深め合える学習の実践に努めるとともにその課題に関する研修に努める。 ② 保護者や地域住民へ授業参観やオープンスクールの機会を生かし、教室掲示物などで研究の様子を見ていただく。また学年により、学校により等で学級活動の様子を知らせ、理解を得られるよう努める。	B 【達成状況】 保護者、地域住民の肯定的回答率は91.5%で、数値目標を達成した。話し合いに必要なツールや環境の整備を行い、話し合い活動の充実につながった。また、本校児童の実態に合った、学級活動①の基本的な進め方のモデルとなる授業を展開でき、指導力の向上につながった。 【次年度の方針】 今年度取り組んできた話し合い活動が各教科・領域における学習活動に生かされ、主体的・対話的で深い学びにつながっていくよう努めていく。また、再来年の理科の発表に向けて、研修を深めていく。
	活 動	A11 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率80%以上	① 全学級ローテーションのあいさつ運動や、若松原地域学校園として小中で協力してのあいさつ運動を継続・充実する。また、あいさつ運動で使用したのぼりを廊下に置いて、あいさつに対する意識向上を図る。 ② あいさつ名人の認定をしたり、児童会の計画委員会を主体とした「あいさつ広め隊」の活動を活性化させたりする。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率は、87.2%で指標を上回ったが、保護者の肯定的回答率は71.9%で指標を下回った。毎月実施のあいさつ運動や生活目標などで気持ちのよいあいさつを励行してきたが、視線が合わない、声が小さいなど課題が多い。 【次年度の方針】 今までの朝のあいさつ運動と並行して、校内や教室でもあいさつの輪が広がるよう、環境を整えたい。また家庭へも協力を呼び掛けるなどしながら、根気強く気持ちの良いあいさつの励行に取り組んでいく。
		A12 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、大人に対して適切な言葉づかいや返事をしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率80%以上	① 国語科や会話科の学習を中心に、発達段階に応じた具体的な言葉の使い方を指導する。生活目標にも言葉遣いについての目標を取り上げ、正しい言葉遣いへの意識付けを図る。 ② 学校生活において友達同士の言葉の使い方、敬称を付けた友達の呼び方、教師や大人に対する敬語の使い方ができるよう常時指導をするとともに、各家庭にも懇談会等を通して協力を呼びかける。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率は75.0%、保護者は71.8%で、数値指標を下回った。生活目標での意識化やクラスでの言葉についての授業の実践などに努めてきたが、課題は大きい。 【次年度の方針】 対教師、対友達、対親族、休み時間、授業中などを区別することなく、正しい言葉遣いを常時指導、徹底し、意識の向上を図る。また、懇談やたより等、家庭にも呼びかける機会を増やすなどすることで、根気強く対応していきたい。

健康・体力・学習	A13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	体育部を中心とし、教科体育において魅力ある授業づくりに努める。また、校内や若松原地域学校園で統一した検定表を活用することで、児童の運動技能を効果的に積み上げ、運動への意欲が高まるように支援していく。ジャンピングボード・一輪車・投てき板など、児童が進んで運動に利用できる器具の整備もあわせて行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は84.4%で、数値指標を達成した。運動委員会による外遊びデーのイベントにより、児童の運動への意識が高まった。また、陸上大会練習期間では、自主的に休み時間や放課後に練習に取り組む児童が増えた。 一方で、肯定的回答率を昨年度と比較すると、6.4ポイント低下した。校庭の3つの遊具の安全性に問題があり、しばらくの間使用不可となっていることも影響していると考ええる。 【次年度の方針】 健康・体力向上を目指し、教職員の共通理解のもと指導にあたる。また、新体力テストの結果をふまえて、本校児童の体力面の課題に焦点をあてた体育授業の提案を行う。児童運動委員会を中心に、休み時間における「体力づくり」を行い、児童の運動への意欲を高める。
	A14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答率80%以上	「お弁当の日」や「校内給食週間」、若松原地域学校園統一の「食育ファイル」等で家庭との連携を推進する。食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や栄養教諭と協力して計画的に実施していく。 「食育だより」や学校のホームページなどを活用し、食への理解を深める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は69.6%で、数値指標を下回った。保護者の肯定的回答率の割合が低いことが、昨年度同様課題であるが、市の肯定的回答率も70.7%と、全市的な傾向と言える。学校では嫌いな食べ物でもがんばって食べている児童が多いが、家庭の食事では少し様子が違うのかもしれない。 児童は今年度も「お弁当の日」、「校内給食週間」等の行事に積極的に参加していた。 【次年度の方針】 給食の時間に栄養教諭がクラスを巡回して食育指導を行ったり、年間指導計画に食育指導を位置づけて授業を行ったりと、食育に関する指導を今後も充実させていく。また、食育だよりや学校ホームページ等で食育指導の様子を発信し、保護者や地域住民にも食への理解を深めていく。
	A15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	学習活動で、主体的に問題解決に取り組む、協働して学び合う場を取り入れることで、児童の学ぶ姿勢が個と集団の成就感につながるようになっていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は87.7%で、数値目標を達成した。課題解決のために、ペアやグループ、学級全体で話し合う活動によって、主体的に意見を述べたり、互いの意見を比較しながら正しい答えを導き出したりするなど、積極的に学び合う姿が見られた。 【次年度の方針】 引き続き、学び合いの場を意識的に授業に取り入れ、協働して学ぶ喜びを感じ取れるようにしていく。温かい人間関係づくりを基盤として、「学び合う集団づくり」を研究推進するとともに、学校での取組や児童のよさ、成長などについて、一層の情報発信に努める。

本校の特色・課題等	A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 基本的な学習のきまり」について、掲示物を活用して児童への意識付けを図るとともに、各教室に学習態度等に関する重点指導項目を掲示するなどして、児童と共通認識を持ち、落ち着いて学習に取り組めるようにする。 ② 個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話を積極的に持ち、各担当者間で連携して指導に当たる。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 81.3%で、数値目標を達成した。今年度新しく取り入れた「立腰」の取り組みや日々の学業指導により、落ち着いて学習に取り組む姿が多く見られた。個に応じた支援も継続して行った。市の肯定的回答率と比べると-6.1%と課題も見られるため、引き続き工夫と支援を要する。 【次年度の方針】 学習のきまりの中から、発達段階や学級の実態に応じた学習の目標を設定し、学級全体でめあて達成に向けて取り組むことで、学習ルールの徹底を図っていく。
	B2 望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、学校でだれとでも協力して生活している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 縦割り班によるわくわくタイムでの遊びや清掃活動、また兄弟学年での農園活動などを通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ② 縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしていくことで、他の人のために役に立っているという意識(自己有用感)を高めるとともに、互いの良さを見つけ、協調して活動しようという態度を育てる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 85.4%で、数値目標を達成した。学級での話し合い活動や当番・係活動、クラス共遊の時間などでは、同じクラスの友達と協力することの大切さを味わった。また、縦割り班活動、縦割り清掃、兄弟学年での農園活動など、異学年間の活動を通して、助け合いや思いやりの心が育った。 【次年度の方針】 学級活動での、話し合い活動や係活動の充実を図り、協力することの大切さを味わわせる。児童会活動や異学年活動では、児童がそれぞれの役割を自覚し、主体的に活動できるよう支援していく。また福祉委員会での取り組みの「かがやきの木」の効果的な活用を図り、児童間での認め合いの場を設定することで、自己有用感を高めていく。
	B3 教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 交通指導員や登校・下校ボランティア・地域の見守り隊の方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続する。また、地域でも朝や帰り等にあいさつ運動に取り組んでもらうよう呼びかける。 ② 校内の掲示物や学校だより等であいさつに取り組む様子を地域や保護者に知らせるとともに、家庭でもあいさつをする機会を多く持つように啓発を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 86.9%と、数値目標を上回っている。月 1 回のあいさつ運動などを活用して、家庭や地域でも、あいさつの輪が広がっていることと考えられる。 【次年度の方針】 今後も家庭や地域に、学校情報システムのメールを活用してあいさつ運動についての協力を仰ぎながら、取り組んでいく。また家庭や地域でのあいさつの様子を調査し、たより等で知らせるようにしていきたい。

B4 教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、読書や調べる勉強などで一月に10冊以上本を読んでいる」⇒児童の肯定的回答率90%以上	① 始業時刻前に図書館を開館し、利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を毎日位置付け、読書の推進に努める。 ② 家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、必読図書を活用して様々なジャンルの本に親しませ、読書指導の充実を図る。 ③ 若松原地域学校園で連携を図って読書意欲を向上させる。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、76.8%で、数値指標を下回ったが、昨年度の66.3%より、10ポイント以上上回った。教職員肯定回答は100%、保護者93.9%と多くの方から承認を得られたことは、大きな励みとなった。 「朝の図書館開放」「毎日の朝の読書の時間の確保」により、読書のリズムが定着してきて、教室で静かに読書している様子が見られる。読み聞かせボランティアの方々と親しむ機会が多かったことや読書週間の児童活動が充実していたことも児童の読書意欲の向上に効果的であり、本好きの児童が育っていると考えられる。 【次年度の方針】 朝の図書館を開館し利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を充実させ、読書の推進に努める。 また、家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルに親しませ、必読図書の見直しを含めた読書指導の充実を図る。 更に若松原中学校を中心として、若松原地域学校園でも協力して読書活動の推進に努める。
B5 教職員は、児童の人間関係力向上を目指して、縦割り班活動を推進している。 【数値指標】① 学校独自アンケート「私は縦割り班活動で多くの友達と楽しく活動している」⇒児童の肯定的回答率80%以上	リーダーである6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。活動の前に手をつないで輪になり、活動内容を共有する場を設けるなど、中学年や低学年の児童にも、コミュニケーション力や人間関係力の向上を目指せる場とする。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は91.4%で、数値目標を達成した。様々な場面で縦割り班での活動を実施し、異学年間の交流を深められた。上学年が下学年の面倒を見たり、下学年が上学年の姿を見て学んだりするなど、望ましい人間関係づくりに役立った。 【次年度の方針】 縦割り班で協力できる活動に継続して取り組んでいく。各班での話し合いでは、低・中学年の児童の意見も積極的に取り入れるように支援し、どの学年の児童も所属感を持って意欲的に活動できるようにしていく。

〔総合的な評価〕

- 数値指標達成状況からみると、7割強の項目で達成できた。中でも、「よいところを認め、熱心に指導」「教育課程の適切な実施」「積極的に情報発信」「家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営を充実」「異学年交流によるコミュニケーション向上」などで、保護者・地域・児童・教職員の全てから高い結果が得られた。今後とも、本校・本地域のよさを生かし、協力・連携を深めながら教育活動を実施していきたい。
- 経年比較により、保護者からの評価が暫時向上した項目も見られた。中でも「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気」「よいところを認め、熱心に指導」「分かりやすい授業やきめ細かな指導」「教職員が指導力向上、工夫改善に努力」では、過去5年の推移からしても高い評価を得た。これらの項目は本校が重点課題として取り組んできた内容にも関わるものであり、保護者や地域の協力を仰ぎながら築いてきた温かい人間関係を基盤とした、努力の成果と考える。
- 児童については、特に「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気」「教職員の家庭地域と連携したあいさつ運動」「異学年交流によるコミュニケーション向上」において、過去5年で最も高い評価となり、児童自らが少しずつ教育成果を自覚し、集団の中で居がいのある生活を送ることの意義を認識できるようになってきていることが推察される。
- 個々の項目については、引き続き「決まりとマナー」「あいさつ」「言葉遣い」「好き嫌いをなく給食を」の課題が浮き彫りになった。未来を担う子どもたちのよりよい成長のために、本校のもつ地域の特色やよさを最大限に生かしながら、学校の実情に合わせたよりよい教育活動の再構築を目指したい。さらに、「いじめに関する取組」についても、適切な説明と情報発信が求められている。今後は、前提となる本校としての基本方針を改めて確認することで教職員の一層の共通理解を図り、「取組強化期間を設定した集中的な指導」や「個別の指導」など、工夫改善を行いながら継続的に指導するとともに、家庭や地域とより連携を深めながら子どもたちの指導に当たり、より有効な情報発信に努めていきたい。

6 学校関係者評価

- ・ 「あいさつ」については、徐々によい方に変わってきていると感じている。子どもたちが笑顔で明るくあいさつを掛けてくると、こちらも元気をもらい、とてもうれしくなる。
- ・ 自分からあいさつすることができない子どもがいても、相手に気付いた人から先にあいさつをすればよいという気持ちで続けていきたい。こちらからあいさつを続けられれば、相手は変わっていく。どの子にも同じように接していきたい。
- ・ 今年度は、地域学校園の取組「WGSあいさつ運動」に参加した。大人も子どもも一緒に進めていけるとよい。
- ・ 「よいところを認め、熱心に指導」では、地域にも子どものよさを見かけたら「かがやきカード」で知らせてほしいと頼まれている。あまり書けなかったが、学校だけでなく地域ぐるみでこどもを見守り、よさを認めていく姿勢がよい。
- ・ 「いじめ対策の公表、熱心な取組」では、児童と教職員が高評価なのに対して保護者が低めの結果であることに疑問を感じていたが、自己評価の説明を聞いて、学校が迅速な情報伝達や対策会議、指導支援を根気強く続けていることや、教職員が組織で対応する体制が構築されていること、学校が本気で努力していることがよく分かった。その頑張りを保護者や地域にも積極的に情報発信することが、これからは大切だ。
- ・ 「地域・企業との連携」については、地域協議会が協力し、地域ボランティアによる教育支援が積極的に行われているが、協力者の高齢化に伴う新メンバーの開拓など、課題もある。
- ・ 地域にある250社ほどの企業にも、学校のニーズに合わせて協力をいただき、より地域で子どもを育てる環境づくりを図っていけるとよい。
- ・ 児童の登下校の安全確保ために協力くださっているボランティアのメンバーの名簿作成を進めたい。組織化することでより連携が強くなる。(→ 地域協議会員に全自治会長を加え、名簿作成等、組織化に向けて協力をいただく。)

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<学校運営>

- 重点目標「子どもの匂いのする学校」のもと、子どもの思考・判断・表現力を大切にしながら、明るく楽しい活気に満ちた学校づくりを目指し、教職員が一丸となって推進してきた。今後とも**児童の思考・判断・表現力を尊重しながら、新たに「褒められた経験」や「叱られた経験」を大切にするという視点をもって、「自己肯定感が高く、へこたれない力の強い児童の育成」**を目指す。また、地域企業に協力を仰ぐなど教育活動をより工夫、連携して推進するとともに、適切かつ時機を得た情報発信に努め、家庭・地域等と協力・連携してより質の高い教育の充実を目指していく。

<学習指導>

- 「互いのよさを生かし、よりよい人間関係を育む指導の工夫」の重点目標のもと、特に「自発的・自治的活動」の充実を目指した学級活動(1)の在り方について教職員全体で授業研究及び授業実践を進めてきた。今後は、これらの研究成果及び各種調査の結果を踏まえて「**自ら学びに向かおうとする児童の育成**」を目指し、**学びたいと思わせる導入の工夫や分かる授業展開**について研究を進める。児童の実態に即した評価改善を加えながら根気よく実践するとともに、家庭等と連携した指導や取組の充実を図っていく。

<児童生徒指導>

- 「互いのよさを認め、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」を目指して、あいさつや礼儀、縦割り・異学年交流活動に重点をおいて推進してきた。今後は、「**自他への思いやりの心をもって豊かな人間関係を築くことができる児童の育成**」を目指し、**相手の気持ちを考えた正しい言葉づかいや礼儀、あいさつの定着**に向けて取り組む。また、「**いじめに関する取組**」についても、これまで培ってきた教職員の組織を生かした実践力の一層の強化に努め、工夫改善を行いながら粘り強く指導するとともに、**より有効な情報発信**に努め、家庭や地域との連携を深めながら取り組んでいく。

<健康（体力・保健・食・安全）>

- 「自らの健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成」の重点目標のもと、体育授業を柱とした運動習慣の形成・休み時間の外遊び推奨の取組を中心に推進してきた。今後は児童の実態に鑑み、**健康の保持増進等望ましい生活習慣の定着に向けた保健指導の工夫改善**に焦点を当てる。各種検診結果及び教育活動等の有効活用や、児童が必要性を理解し目当てをもって取り組む工夫とともに、家庭への啓発・連携に努める。また、「**好き嫌いをなく給食**」については、教職員の一層の共通理解を図り、積極的に指導に工夫を加えるとともに、家庭や地域に情報を発信していく。